東日本大震災
オーストラリアで
リスクマネジメントを考える

保険のプロから学ぶ危機管理

CORPORATE AFFAIRS MANAGER
SGIO
ロブ・コリィ氏
ROB CORY

台風、洪水、干ばつ、毎年続く猛暑と暖冬。また、火災や交通事故など、私たちの身の回りには、危険が潜んでいます。十分気を付けて生活していると思っていても、第三者の視点から見ると見落としている点があるかもしれません。今回の東日本大震災を受け、オーストラリアに住む上で考えられる自然災害にどう対処するのか、西オーストラリアの大手保険会社 SGIO の CORPORATE AFFAIRS MANAGER のロブ・コリィ氏にお話を伺いました。

Q オーストラリアで起こりうる自然災害はどのようなものがありますか。どのような災害の被害報告が多いのでしょうか。

A オーストラリアで考えられる自然災害のリスクは、主に山火事、ストーム、サイクロン、洪水などが挙げられますが、やはり一番多いものは山火事です。毎年 12 月頃から多く発生し始め、3 月、4 月頃まで発生します。2010 年 12 月にパース郊外で起こった山火事は、SGIO だけで 60 のクライアントから事故報告を受けました。

この山火事が起きる前の 3 ヶ月ほどは、例年に比べ気温が高く、湿気も少なかったため、植物を乾燥させてしまった環境を早々に導いてしまいました。更に冬は、雨が少なかったために湿気も少なく、より燃えやすい環境にありました。

SGIO の調査によると、パース市内とその近郊で、山火事傾向にある地区に住む人たちの 3 分の 1 の人たちが、山火事に対する予防をしておらず、またその内の 3 分の 2 の人たちは、過去に一度も山火事に対して予防策をとったことがないという統計が上がってきています。市内よりも田園地方や、そこに隣接する地区、州や国立公園などは山火事発生のリスクが大変高いですが、直接隣接しない都市でも、近くであれば、山火事のリスクは十分考えられますから、注意が必要です。単純ですが、重要な予防策を知ることで、日々安全に暮らすことができます。例えば、庭のメンテナンスは必須です。特に草木はよく手入れをして、ゴミを少なくしておく。残念ながら、山火事がいつどこで起きるのかは予想できませんが、だからこそ予防しておくことが重要になります。

山火事以外で言えば、サイクロン。そして、サイクロンが引き起こす洪水の被害も甚大なものになり得ます。昨年 2010 年末から起こり、今もその被害の再建が続いているクイーンズランド州の洪水被害。サイクロンによって屋根が落ち、その後の洪水によって、多くの家屋が浸水しました。家財や車も流された人も多くいました。このような事態に備え、日頃から防寒着や貴重品、写真などは防水バック入れておいたり、また家財はできるだけ高いところに設置するといった工夫が必要です。

洪水被害は、オーストラリアにおいて発生する自然災害で損害額が大変大きく、毎年 4 億豪ドル以上にのぼります。

© SGIO

© SGIO

パースエクスプレス Vol.159 （2011 年 4 月号）

東日本大震災
オーストラリアで
リスクマネジメントを考える

Q 昨年 2010 年 3 月、パース市街と北西部を中心に襲った、暴風や豪雨を伴った雹（ひょう）被害がありました。雹はゴルフボール大の大きさのものもあり、多くの車や家屋を襲いましたが、被害の大きさやそれによる影響などはどのようなものだったのでしょうか。

A 昨年 3 月にパースを襲った雹被害は、大変な被害でした。被害に遭われた方は、約 2 万人です。SGIO に加入している自動車被害について言えば、19,000 台が被害に遭いました。被害総額は 1 兆豪ドルに上っています。事故報告のあった約 95％は終結しましたが、1 年以上経った今でも、全ての事故の終結を迎えてはおらず、未だに被害を引きずっています。雹による被害は、屋根、壁、排水溝など広範囲に影響を及ぼしました。被害を受けた車を見かけた方も多いと思いますが、車体に小さなボコボコとしたへこみがみられるのは、その雹を直に受けた跡だと思われます（右上の写真参照）。

毎年冬になると、SGIO では多くのストームや、それに付随する自然災害の事故報告を受けますが、事前に何かしら防ぐことのできる事故も多くみられます。昨年 3 月のその雹被害においても、事前に防止策をとっておけば、少しは被害を小さくすることができたようなこともあり、それを見直す機会になったと思います。例えば、SGIO の調査によると、西オーストラリア州で家を持つ半数以上（約 58％）の人が、屋根の水漏れのチェックをしていません。3 分の 2 以上（60％）の人が、排水溝の掃除をしておらず、半数（約 51％）の人が、自宅のフェンスの状態をあまり確認していません。このようなことは、大変小さなことですが、見直して修理しておくことで、被害の拡大を避けることができます。実際にこの 1 年、SGIO に請求された損害の 3 分の 1 はストームに関することでしたから、身近で起きうることなんだと再確認する必要があります。他にも、ストームや雹の被害に備えて事前に準備できることがありますので、以下の点を確認してみて下さい。

- ■屋根の漏れのチェック、樋と水路をきれいにしておく。
- ■木が屋根や車に落ちてくるのを防ぐために家の周りや近くになる木は刈っておく。
- ■所有している建物と家財が加入している保険でもカバーしているか、また保険の約款に改定がないか確認しておく。

© SGIO

Q 実際に自然災害や事故が起きた時、慌ててしまうと思いますが、日頃から準備しておくことや、気を付けることはありますか。

A 洪水や山火事、雹の被害など、自然災害はいつ起こるか予想がつきません。ですから、保険の観点から言えば、リスクに備えた準備が必要です。加入している保険が、その自然災害によって生じた被害をカバーできるのか、保険の約款を確認すること、また家財などについては高価なものなどは加入時に購入時の価格などをきちんと明記し、申告することが大切です。申告が漏れていると、その対象物件の支払いができない可能性もあります。日頃から、高価なものを購入したら、レシートを保管しておき、その都度保険会社に申告することも大切です。

万一、自然災害が起きたとして、もちろん命が大事ですから、逃げることが第一です。その際に保険証を必ず持って逃げないといけない、ということはありません。保険会社に控えがありますから、確認はできます。しかし、前述の通り、大切な書類などはひとつにまとめて、万一のときに備えることが必要です。

保険会社は、保険の加入を考えている人が加入する時に、その人に起こりうるリスクを多方面から洗い出し、どこをカバーするか、どれくらい必要かということを明確にし、その人や企業にあった保険を共に見つけていきます。一口に、建物につける保険といっても多種のプランがありますから、この災害はカバーされるが、あの災害は特約をつけないとカバーされないということもあります。加入時には、自分にあった保険を、保険会社と相談して見つけることが大切です。